

## 高知平野におけるムナグロ1羽の越冬

田中正晴

A case of wintering of the Pacific golden plover *Pluvialis fulva*  
on the Kochi Plain

Masaharu TANAKA

**Key words:** *Pluvialis fulva*, migratory bird, wintering, Kochi Plain.

### はじめに

ムナグロ *Pluvialis fulva* はチドリ科に属する旅鳥である。本種は6月ごろツンドラ地帯で繁殖し、冬季は東南アジアからオーストラリアに渡って過ごし（森岡, 1973）、その渡りの途中に、春季と秋季に全国的に渡来する（真木・大西, 2000）。また、小笠原諸島や南西諸島では定期的に越冬している（真木・大西, 2000）。

高知県での本種の記録も春季と秋季の渡りの時期に集中しており（高知県, 1986, 1995）、春季には3月末から4月上旬のちょうど水田に水が引かれる時期に渡来し、5月中旬に飛去する。秋季には8月上旬から中旬に渡来し、稲刈り後なお湿地状態にある水田などで観察され、10月中旬から11月上旬に飛去する。春季・秋季ともに渡りのピーク時には100羽を越える大群を形成することもある（田中, 未発表）。

一方、必ずしも上記のスケジュールに一致しない記録もある。すなわち、高知県内における12月から3月中旬の観察例としては1980年12月20日中村市鍋島での4羽をはじめとして、計9回の報告例がある（高知県, 1986, 1995）。また、1995年以降の筆者の観察記録（未発表）によると、本稿で報告する2001年冬季の観察例を別としても、冬季のムナグロは計28回が記録されている。全体として記録は散発的ではあるものの、1980年以後は高知県

のどこかで、隔年ではあるが冬季のムナグロが観察され、特に高知市東部の高須・大津地区では1995年以後、毎年観察されている。

しかしながら、これらの個体が冬季のシーズンを通じてその場所に留まるのか、それとも一時的に立ち寄っただけでさらに移動して行くのかは不明であった。ムナグロのこの地での越冬を証明するためには、同一個体が冬季を通じ継続観察されることが必要である。本稿では、高知市東部の高須・大津地区におけるムナグロの越冬例について報告する。

### 観察地と方法

観察地である高知市高須・大津地区（環境庁3次メッシュ番号 50332476 の全部及び 50332465・50332466・50332475・50332477・50332486の一部）は、高知平野のほぼ中央部にあり、高知市の東部を流れる国分川河口域の南岸及び東岸に位置する。

筆者は1976年以降、この地区の他に高知市東部とそれに隣接する数カ所を主要な観察地として継続調査している。高須・大津地区は水稻を中心とする耕作地が大部分を占める。3月には水田に水が引かれ、田植えの準備が始まる。収穫は7月下旬から8月である。冬季には部分的に露地野菜が栽培されるが、大部分は休耕する。

観察はおもに午後に行ない、7倍の双眼鏡と、可

変倍率（ズームで20倍～50倍）の望遠鏡を使用した。移動には車を用いて、おもに車中より観察した。観察は不定期であるが周年行なっている。

### 結果と考察

2000年11月から2001年3月の間の各月の観察回数は、11月が11回、12月が9回、1月が4回、2月が5回、3月が9回であった。

2000年秋の渡りのシーズンにおける高須・大津地区でのムナグロの観察個体数は、初認が9月10日の2羽で、10月の最盛期には42羽に達し、その後11月3日の2羽まで徐々に減少した。その後の経緯を表1に示す。11月14日にムナグロ1羽が観察され、

表1. 高知市高須・大津地区で観察されたムナグロとタゲリの個体数の変動

年	月	日	個体数		混群*
			ムナグロ	タゲリ	
2000	11	14	1	29	+
	11	17	1	27	-
	11	27	1	40	-
	11	28	1	39	-
	12	4	1	29	+
	12	5	1	29	+
	12	6	1	31	+
	12	11	1	22	+
	12	12	1	3	+
	12	15	1	29	+
2001	12	26	1	31	+
	1	9	1	18	+
	1	16	1	35	+
	2	5	1	32	+
	2	12	1	33	+
	2	19	1	26	+
	2	26	1	24	+
	3	1	1	18	+
	3	5	1	8	+
3	12	0	3	+	

\*ムナグロをタゲリの群の中で観察した(+)か、単独で観察した(-)か。

以後2001年3月5日までムナグロ1羽が継続記録された。ムナグロは11月中は単独で見られたが、12月4日以後はタゲリ *Vanellus vanellus* と常に行動を共にしていた。タゲリは冬鳥として高知県に飛来し、高知平野では普通に観察される（高知県、1986、1995）。この年も高須・大津地区での初認は10月22日の1羽で、以後11月14日までタゲリの個体数は徐々に増加した。タゲリの群れの中でのムナグロの観察は、12月4日より3月5日まで続いたが、3月12日にはムナグロは観察されなかった。ムナグロが次に観察されたのは4月2日の1羽で、ひき続き春の渡りのシーズンが始まった。タゲリは2月12日以後に個体数が徐々に減少し、3月12日に3羽を見たのが終認となった。

高知県ではムナグロは旅鳥、タゲリは冬鳥であり、両者が混在する時期は通常限られている。また、ムナグロがタゲリの群れの中で行動を共にする現象は、当地区では他にほとんど例がない。今回の例でも、11月中はタゲリの群れと必ずしも行動を共にしていない。

しかしながら、12月4日以後に観察された1羽のムナグロはタゲリの群と共に移動・採餌していた。また、通常のタゲリの群と異なり、このタゲリとムナグロ1羽の群は敏感で、人が接近するとすぐ飛び立つという特徴があった。3月5日以後、タゲリの大多数が飛去するのとほぼ同時期にムナグロもいなくなった。これらの事実から、この冬季を通じ観察された1羽のムナグロは同一個体であった可能性が高いとみなされる。いずれもの例においても、観察されたムナグロの羽毛パターンは成鳥の冬羽ないし幼鳥のものであり、個体識別の手がかりとなりそうな特徴は確認できなかった。また、観察日ごとの違いも認められなかった。

高須・大津地区では例年と違ってこの冬季を通じ湿地状態が保たれた場所があり、そのためこの群は大きな移動をすることなく決まった場所で継続観察された。このことから、観察されたムナグロが同一個体であったことが強く示唆される。

高知県でムナグロの越冬が個体レベルで追跡されたのは、今回が初めてである。

この原稿の執筆にあたり、御助言をいただいた高知大学医学部熊沢秀雄博士に心より感謝いたします。

### 引用文献

高知県. 1986. 高知県の鳥1986年. 高知県保健環境部, 高知, 300pp.

高知県. 1995. データベース高知県の野鳥1986年～1993年. 高知県保健環境部, 高知, 444pp.

真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京, 656pp.

森岡弘之 (監修). 1973. 世界動物百科第101号朝日新聞社, 大阪, 31pp.

(原稿受理 2004年6月1日)